

## 所外研修⑦ 琉球大学附属小学校の授業参観・授業研究会

6月30日(火)に連携推進大学である琉球大学の附属小学校で行われた「公開授業・公開授業研究会」に第7回所外研修として、参加しました。上地豪教諭によって行われた小学校1年生の「道徳」授業に学校内外から70名近くの先生方や学生の皆さんが参観し、活発な授業研究会が行われました。その後、当教育研究所の指導講師でもある琉球大学 上地完治教授と大阪市立豊仁小学校長の服部敬一氏から指導助言があり、新しい道徳の方向性と資料の価値のとらえ方について多くの示唆を頂きました。

## 教育研究員の感想 (研修日誌から)

小学校の道徳の授業を参観したのは初めてでしたが、幼稚園児の1つ上の1年生ということで子ども達の様子も近い部分もあり、参観しやすかったです。

「子どもの発達に合わせた具体的なねらいを設定すること」「良い授業とは子どもが最後に納得する授業」など、幼稚園教育に通じる部分も多く、とても参考になりました。「発問の工夫」は幼稚園で言えば幼児の望ましい育ちを引き出すための教師の援助に当たるのではないかと感じました。

初めて参観して道徳の授業というのは目に見えないことを考えさせるといって難しく奥が深いと感じました。教師がどのようなねらいを設定し、どのような所を工夫しているか、など照乃先生の検証授業を参観する上でも参考にしていきたいと思いました。

(金城さくら)



写真1 琉大附属小学校前にて

研究授業での授業者の発問は、しっかりと1時間の授業のねらいをとらえ児童を導いていたように感じました。1時間の授業でねらいを焦点化することの重要性を感じました。

指導助言の中では、児童が明確な答えが出やすい問いかけが大切であるということが印象に残っています。道徳の授業ではありますが、どの授業にも共通することのように感じ、授業をやる上でも発問を考えるのは難しいのですが、道徳では特に大切なのかなと強く感じています。

服部先生の授業の解説もとても勉強になりました。より具体的に説明していただき、視点がすごいなと感じました。

(大城厚)

私も道徳の授業を組み立てる際に、ねらいの設定に頭を悩ませているため、教師の意図することを明確にもち、どうねらいに迫らせるかのヒントがもらえた気がします。発問の立て方をもう少しお伺いしたかったです。服部先生曰く、子どもたちが「なるほど!」「納得!」と感じられるようなねらいの必要性を説いていました。

授業研究会では、上地先生とのこれまで理論研究してきたことを大まかに、でも丁寧に解説して下さいました。私も自分の研究を自分の言葉で少しでも分かりやすく説明できるようにならないといけないと反省しました。服部先生からは、授業をふり返りながら、どこに気をつけないといけないのか、どう改善すればよいのかを具体的に指導頂いたので、大きな学びになりました。

(長門照乃)

道徳は、私の苦手な分野の1つなので、今日の授業から子どもの発言を引き出す工夫をどのようにしているのかを中心に授業参観をしました。1番印象に残ったのは、教師が児童の話聞いた後の「そうなんだ。」というつぶやきでした。普通この言葉を言われたら、児童はこの考えでよかったのかな?と不安になってしまうと思ったのですが、逆に1年4組の児童はどんどん自分の考えを発表するので、とてもびっくりしました。私だったら「そうだよね。」「いい考えだね。」と言って、道徳の価値を教師の意図する方向に向けていたと思います。豪先生の「そうなんだ。」という言葉とその後の理由をしっかりと突っ込むという方法は道徳以外にも国語等で使える方法かな?と思ったので、現場に戻ったときに実践してみたいです。その後の授業研究会では、服部先生から道徳のおもしろくない原因を聞いたとき、そうかもしれないと思いました。それを教師が当たり前のことを「ゆさぶりの発問」をすることでよりその価値を深めていくのかということをも私も考えて道徳の授業を実践してみたいと思いました。中心発問を見つけるコツは「天から急に下りてくる」みたいだそう。そのためには経験を積むことだと言っていました。多くの経験を繰り返し積むことが大切だと改めて思いました。

(具志堅智美)

道徳の授業を小学校1年生があそこまで自分の意見を言えるのかと感心しました。教師ができるかできないかを決めてしまうのではなく、子どもたちはできるんだという認識をもたなければいけないと感じました。

授業の中で、ある児童が他の児童の考えに対して質問したのに、それを教師が答えてしまったことに疑問を持っています。あの場面は意図して教師が介入したのか、そうだとしたらなぜ介入したのかがわからずもやもやしています。また、「やさしさについて勉強したけど・・・」と教師がまとめていたのですが、違うことを学んだ子どももいるのではと考えてしまいました。

(古屋誠一)